

転ばぬ先の…「庭じまい」

庭を維持・管理しやすくする「庭じまい」。手入れが大変な樹木を伐採したり、枝を詰めたり、更地にしたりして負担を減らす。住みながら、または空き家になった実家で行われることが多い。家じまい、墓じまいと同様、高齢社会の中で需要が増すとみられる。

(小川記代子)



上 女性宅の玄関前。作業前の状態(左)に手が入り、樹木が整えられた。(埼玉県川越市・長尾アートガーデン提供)
下 樹木の枝を切っていく長尾崇史さん(小川記代子撮影)

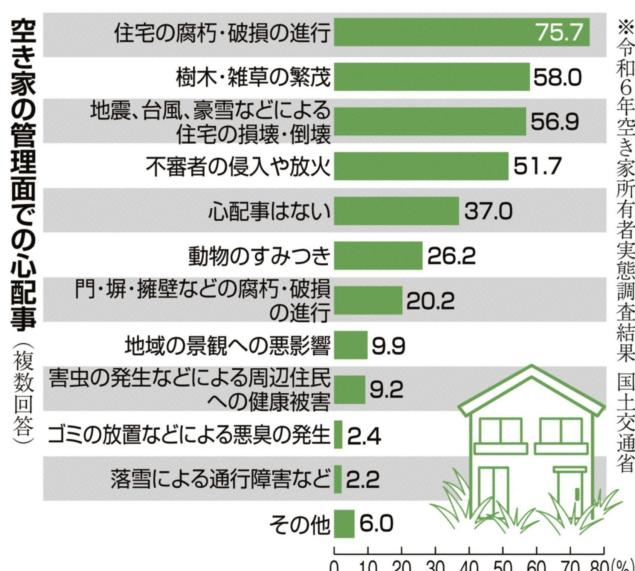
「すっきりしましたね。手入れが楽になるわ」。埼玉県川越市の一軒家。10月上旬、庭の樹木が刈られていくと、この家に住む女性(78)が明るい声を上げた。家は女性の実父が約50年前に建て、庭で柿や椿などさまざまな樹木や草花を丹精して育てた。女性と夫は約20年前からこの家に住み、庭の手入れをしてきたが、最近、「脚立を立てて柿を取るのも、高い木を切るのも大変だ。今後、茂る樹木で近隣に迷惑をかけるような事態は避けたい」と思うようになった。

思いを知った近所に住む息子が、庭じまいも手がける史さんが今年2月に作業を始めた。「長尾アートガーデン」(川越市)に連絡。代表の長尾崇史さんは、柿や数本の樹木を伐採。残しておいて樹木も刈り込んだ。

この日は、残した樹木の伸びた部分を整えた。女性は「緑は好きだけど、先を考えると自分で世話ができる範囲にしなければと思った」と話す。

この日は、残した樹木の伸びた部分を整えた。女性は「緑は好きだけど、先を考えると自分で世話ができる範囲にしなければと思った」と話す。

この日は、残した樹木の伸びた部分を整えた。女性は「緑は好きだけど、先を考えると自分で世話ができる範囲にしなければと思った」と話す。



植えたものです。

現在、近所の一戸建てを見回ったところ、そのような庭はほとんどありませんでした。すっとした樹木が1、2本とか、庭らしき部分があまりないと。手

入れが大変だからでしょう。

ただ、樹木や花々は面倒なだけではなく、気持ちを穏やかにしてくれる面もあります。無理のない付き合い方を考えていきたいものです。

(記)

►ちょっとひとこと

昭和時代のニュータウンに建った家は松やカイドウ、ツツジなどの樹木を庭に